
Heart of The Sunrise

漆原恭太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Heart of The Sunrise

【NZコード】

NZ8518K

【作者名】

漆原恭太郎

【あらすじ】

帰りに寄つたスーパーで・・

これから家に帰り、たまつた洗濯物や家事をことをぼんやり考えていた。なんとなく周りを眺める。楽しそうな男女、座席で眠りかけている疲れたサラリーマン、音楽を聴きながら窓の外をぼうつと眺めている若い男。

ただ何となく過ぎていく毎日。こんな毎日を抜け出すには自分自身が変わらなければいけないと考えていた。一体どうすれば自分自身が変われるのかは分からなかつた。昔何かの本に「人が変わる時は勇気を持つ時だ」と書いてあつた。しかし何に対しても勇気を持てばいいのか分からぬ。

なんとなく過ぎていかない毎日というのはどんな生活なのか？夢、希望、趣味、やりがいのある仕事そういうものを見つければ充実するのだろうか。夢や希望に向かつて努力するという人は本当に好きで続いているのだろうか？ときどき疑問に思う。夢や希望にすがつてないと生きるのは辛いから辻褄あわせのように見える。頑張っているふりをしているように見える。それでもこんな風にただなんとなく毎日を生きているよつはマシか……

電車が駅に到着し、たくさんの人改札に向かつて歩き出していく。改札を抜けて駅前のスーパーに入る。

野菜炒めでも作ろうと思い、玉葱、人参、キャベツを籠の中に入れた。肉類のコーナーへ向かう。一番安い豚肉のこま切れを籠に入れる。他に必要な物がないか考える。インスタントコーヒーはこないだ買った、醤油がなくなりそうだつたはずだがまだ大丈夫だろう、後は……特にないなと思い、レジに向かう。

レジには三十代前半くらいの、長めの黒髪で少しほつちやりした色白の女性店員がいた。

「四百八十五円になります」

財布から五百円玉を取り出し手渡そうとした、しかし女性店員は受取ろうとしない。蚊の鳴くような声で、下に置いて下さいと言っている。たしかにレジ台に小銭置き、小銭置きという名称なのか分からぬが、レジ台の上に置いてあるちっちゃなゴム製のぶつぶつがいっぱい付いている物があつたが、何の気なしに手渡ししようと思つただけだ。受取ろうとしないので仕方なく小銭置きに五百円玉を置く

「十五円のお返しになります」

お釣りを受取ろうと手を出したが、十セントくらい上から二三ちらの掌の上に小銭を落とした。そんなに汚らしい格好はしていないつもりだ、むしろ身なりには気を使つていて。彼女は潔癖症なのかもしない。しかし……スーパーのレジ打ちという職業柄今回のようなケースは少なくないはずだ。個人的に触れられたくないという理由だつたとしても仕事を変えるべきだ。彼女は毎日が充実しているだろうか？ 夢や、希望はあるのだろうか？

帰り道、お気に入りの歌を口ずさみながら野菜炒めはラー油を入れて、仕上げに水溶き片栗粉でとろみをつけて少し中華風にしようと思つた。

(後書き)

タイトルは特に意味ありません・・・
まったく思い浮かばなかつたので好きな曲のタイトルをつけました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8518k/>

Heart of The Sunrise

2010年10月12日02時13分発行